

熊本復興飛翔祭におけるブルーインパルスの展示飛行中止を求める要望書

2017年4月7日

日本共産党熊本県委員会 県委員長 日高 伸哉
日本共産党熊本地区委員会 地区委員長 重松 孝文
熊本県議会議員 山本 伸裕
日本共産党熊本市議団 上野 美恵子
那須 円
山部 洋史

4月3日、熊本市は4月23日に行われる熊本復興飛翔祭において、ブルーインパルスの展示飛行を行うことを明らかにしました。

そもそも、ブルーインパルスは、全国各地の基地で開催される航空祭や自治体等のイベント・行事などで展示飛行を実施することにより、航空自衛隊の存在を多くの人々にアピールするとともに、国産戦闘機のパフォーマンスやパイロットの技量を示すことにより、日本の防衛力や航空産業の水準を国内外に発信し、潜在的な抑止力を高める役割を担っています。

これまでにブルーインパルスが引き起こした重大事故は、1982年に浜松基地航空祭で会場近くの駐車場に墜落、パイロット1名が殉職し、住民12名が負傷したほか、1991年には宮城県金華山沖に2機が墜落し、パイロット2名が殉職、2000年にも宮城県光山山頂付近2機墜落してパイロット3名が殉職するなど、決して少なくありません。

今回の展開飛行は、熊本城を中心に、半径10kmの空域で飛行を実施することですが、住宅が密集している市街地及びその上空で、万が一事故が起これば、重大な被害が発生することは間違いありません。大きなジェット音とともに上空を飛行する戦闘機に、恐怖と不安を感じる市民も多くいます。

本来、復興は、亡くなった人々に思いを馳せるとともに、生活と生業の再建の道筋を示すなかで市民に希望と展望を与え、文化や人々の交流のもとで、一步一步進められるべきものです。こうしたことから、航空自衛隊のPRがそもそもの目的であり、事故の危険性を否定できない展示飛行を、復興の名を借り実施することは許されません。

以上の理由により、ブルーインパルスの展示飛行を中止するよう要望いたします。